

# 日本を元気にする6次産業化、その方向性

## インタビューの骨子

- 6次産業化の具体的な連携イメージは
  - ・特定のタイプはなく、地域が6次産業化することを目指している。
  - ・そのため、どんな連携もあり得る。
  - ・地域資源(ポテンシャル)を最大限活用して、様々な可能性を追求して欲しい。
- 今後の6次産業化政策については
  - ・ソフト、ハード、ファンドが柱となる。
  - ・初年度は200億円規模の農林漁業の成長産業化を実現させるため、官民共同のファンドを立ち上げる。
  - ・6次産業化プランナー、ボランタリー・プランナーを増強する。
  - ・ハード整備は条件から入るのではなく、実際の需要に応じた使いやすいものにする。



針原局長(写真右)とのインタビューは農林水産省食料産業局局長室で行われた。6次産業化についての意欲と期待を、情報誌『第6チャンネル』編集長奥野が聞いた。

## 地域発で地域資源を最大に活かして 日本を元気にする。 それが私たち世代が後世に贈る 最大のプレゼント。

日本の経済を元気にする取り組み  
ならずべてが6次産業化  
だから『私の6次産業化、あなた  
の6次産業化』があつていい

「6次産業化」という言葉が耳慣れないものだと感じてらっしゃる方もまだまだ多いのではないかと思います。この言葉はここ十数年の間に農林水産業界に出てきたキーワードのひとつなのですが、掛け算で、1次産業、2次産業、3次産業を連携させることで1次産業とその周辺にある関連産業の業界規模を拡大させていこうとするものです。1と2と3は足し算でも6になります。1次、2次、3次産業のどこかひとつが欠けても成り立たないという意味で掛け算だと言われているのです。それぞれの分野での事業者が連携することではじめて、6次産業化としての本質が発揮されるわけです。では具体的に6次産業化とは何かと言いますと、1次産業に携わる農林漁業者の方が自ら加工や販売に乗り出していき、自分たちが作った農産物の価値を高めることで、所得を高めていくというのが最も基礎的な取り組みです。いわゆる「農林漁業の6次産業化」の例です。しかし私どもがもうひとつ重要なポイントだと考えているのが『農山漁村の6次産業化』です。農山漁村に

は美味しい水や空気をはじめ、自然を育む動植物などさまざまな資源が存在しています。これら農山漁村のすべての資源を活かした『産業興し』を考えていく必要があります。農山漁村の6次産業化を進めることで、まだ十分に発揮されていない農林漁業の1次産業のポテンシャルを活かし、日本経済を元気にする原動力となるような役割を期待しているのです。

ここでひとつ強調しておきたい点は、私どもの考えている6次産業化というのは、農業の周辺にある関連産業(食品産業、肥料や農業、資材などの産業を含めた業界規模、産出額)という100兆円をどう成長させるかという点に焦点を当てているものだという点です。10兆円と言われている1次産業の産出額を20兆円にする方法、そして同時に関連産業も100兆円からどんどん飛躍していく。つまり農業と関連産業がWINWINの関係になって、共にお互いを補いながら長所を伸ばし合う。そして日本を元気にすること、それが6次産業化の本質なのです。なので6次産業の推進に関してよく懸念されることとして、1次産業が新たに加工・販売分野に進出すれば既存の2次、3次産業の利益が侵食されるのではないかと、「6次産業化を行っても日本経済全体でみれば何も変わらないのではないか」という意見がありますが、実際は逆で、

食料産業局ではより広い視野で業界全体を活性化させるための前向きな施策として6次産業化を位置づけているのです。

またもうひとつよく言われることに「農商

工連携との違いはなんですか?」というものです。これはいろいろな方がそれぞれの思いで6次産業化を語られている状況のなかで生じた言葉の混乱のせいもあるかと思えます。ですが、実はそこはもつとシンプルに考えていただいてもいいと考えています。『私の6次産業化、あなたの6次産業化』があつて良いと思います。それぞれがそれぞれの思いを持って『私の6次産業化』をたくさん打ち出していだきたい。私も食料産業局では、そうした多様な6次産業化の取り組みをバックアップするために、個別の案件に対してすべてオーダーメイドで対応できるような政策を整えていく必要があると考えています。ここでは従来のような補助制度をメインにしたものではなく、政策自体も柔軟化させる試みを行っているというつもりです。

例えば、輸出、観光、IT分野などに乗り出すことも6次産業化の一環となるでしょう。ですから、食料産業局も輸出、観光、ITなどより幅広く新しい分野にまたがる政策を視野に入れた予算の充実を企画しているところなのです。

## 政策の3つの軸、ソフト、ハード、そしてファンドの形成

次年度の具体的な施策について関連予算の内訳には大きく3つ、ソフトの関連予算とハード関連予算、そしてもうひとつは新しい取り組みとして立ち上げるファンドの形成、創設があります。ソフト面につきましては、各地域ごとにそれぞれの農山漁村で6次産業化を推し進める人材として「6次産業化プランナー」を設置しました。またそれに加えてより専門的な知識やネットワークを有する「ボランティア・プランナー」等とを合わせて、今年度は全体で300名ほど任命しています。この指導層を次年度には500名に増強する予定です

す。そのなかには、前述の輸出やITの専門家など新しい分野で専門的なアドバイスを与える人材を任命することを考えています。

次にハード面ですが、多様な6次産業化の取り組みに柔軟に対応するために、すべてオーダーメイドで受けるということをやっていきます。これまでは、農業主体タイプなのか、農商工タイプなのか、地産地消タイプなのかといった具合に要件定義が細分化され過ぎてきた面がありますので、6次産業化の施策では、そうした枠組みを取り払おうとしているのです。いくつかの型にはめ込むのではなく、柔軟にあらゆる事例を整備の対象とするようにして地域のお役に立てるようにハード面も強化したいと考えているのです。

農林水産省 食料産業局長 針原 寿朗 氏

## 1次産業が生み出したバリューを消費者につなげる、相互にコミットメントする事業者間の強固なパートナーシップの形成

最後にファンドの創設ですが、これには財政融資資金を活用します。要求額は初年度200億円。これに加えて民間からの拠出として20億円ほどをお願いしたいと考えています。中央に農林漁業を成長産業化するためファンドを創設し、そのファンドから各地域に創設する20ファンドに出資をする。そしてさらに各地域の20ファンドが地域の6次産業化に取り組んでいる各事業者へ資本を提供するという形で、地域の取り組みを支援していきます。

このファンド創設の意図は、農家が作った生産物の持つバリューを消費者である国民の皆さんにきちんとお届けできるような体制を築くことにあります。いまの体制の問題は、農家の方がどんなに一生懸命美味しいものを作っても、その商品価値が川下まで伝わらず途中で途切れてしまっていることなのです。当然マーケットからも商品価値を評価されない。そこで流通、加工、マーケティングにおよぶ3次産業分野の事業者までが1次産業従事者とリスクを共有しながら、共同の事業にコミットメントしていくやり方を作りたいと考えてました。リスクと利益を同じように共有することで、事業者間のパートナーシップを強化し、そこから生まれる新しい展開でもって、最終的に商品のバリューチェーンを上げていけるようにしたいのです。

その際に、1次産業はどうしても資本力の面が弱いことが問題になります。そこでファンドからの出資という形で資金面を支援していく。なぜ補助金ではないのかといいますが、補助金だとどうしてもさまざまな縛り

がかかってきてしまうのですが、出資金であれば柔軟に資金を活用することができます。こうしたファンドの出資による資金の支援体制を形成することで、さまざまな6次産業化の取り組みが円滑に進められ、1次産業が生み出すバリューが国民の皆さんまで減失されずに届くことにつながるのではないかと考えています。初年度の200億では200ほどの取り組みしか支援できないかもしれませんが、それを何年も継続させることで、地域の所得が増え、1次産業10兆円が20兆円に膨らみ、関連産業100兆円がさらに膨らんでいく。そうしたWIN WINの関係を積極的に支援する、そのためのファンドを作りたいと考えています。

これまでは、間接金融や補助金を1次産業側に投入する形の政策を行ってきたのですが、今回は関連産業側に直接出資を行うという新しい政策手法を持ち得る、そうした転換をやっていききたいと思っています。

資本金を大量に出資した際、同時に会社の経営もきちんとした体制で行わなければ、資本が減失する可能性があります。そこでソフト面として設置しているプランナーや各ファンドのファンドマネージャーがきちんとその取り組みの出資価値を上げていくようなお手伝いをしたり、出資者の利益を保護しながら会社の適切な運営を行えるようにサポートしていく役割をしていただきます。6次産業化の取り組みに関しては、こうしたソフト面ですさまざまな分野のひとびとがアドバイスをできる環境を整え、重層的な取り組みを地域発でやっていただきたいと考えています。

6次産業化の取り組みは始まったばかりですが、継続させ、地域発で地域資源を最大に活かして日本を元気にする。それが私たち世代が後世に贈る最大のプレゼントになるのだと思います。皆で頑張っていきましょう。